

平成 20 年 7 月 1 0 日

吹田市

市長 阪口 善雄 殿

社団法人 日本建築学会近畿支部

支部長 渡邊 史夫

千里ニュータウン南地区センタービル・文化センターの保存に関する要望書

拝啓 時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、本会の活動につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。さて、貴市におかれましては、千里ニュータウン南地区センタービル・文化センターの建て替え計画にともない、本建築を解体撤去の予定である由、拝聴しております。

この建物は、別紙「見解」に記しますとおり、1960年代の千里ニュータウンの開発に際して、20世紀日本を代表する建築家・村野藤吾（1891～1984）の設計により建設されたものです。戦後日本の住宅地建設の画期をなす千里ニュータウンの設計理念を反映し、また日本の戦後復興と高度経済成長を象徴する、しかも優れたデザインを持つ歴史的な建造物であります。

千里ニュータウンの建設を記念する数少ない歴史的な建物でありますので、保存しながら活用することで、街が歴史的な厚みのある豊かなものになると言えます。近年では、建築資源の有効活用の視点からも、こうした鉄筋コンクリート造建築は、構造体の補強および機能に応じた整備によって長寿命化を図り、新たに活用してゆくことが求められております。

貴市におかれましては、このたびの計画に際し、その価値を十分に認識され、かけがえない文化遺産を後世に継承していただけるよう深甚なるご配慮をたまわりたく存じます。

なお、本会はこの建築の保存に関して、技術的支援などできます範囲でお手伝いさせていただきますと考えておりますことを申し添えます。

今後とも、この優れた由緒ある建造物と環境の保全に、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

平成 20 年 7 月 1 0 日

財団法人 大阪府タウン管理財団
理事長 松井 健 様
財団法人 大阪府タウン管理財団 千里事業本部
常務理事兼千里事業本部長
青谷 賢治 様

社団法人 日本建築学会近畿支部
支部長 渡邊 史夫

千里ニュータウン南地区センタービル・文化センターの保存に関する要望書

拝啓 時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、本会の活動につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。さて、貴財団におかれましては、千里ニュータウン南地区センタービル・文化センターの建て替え計画にともない、本建築を解体撤去の予定である由、拝聴しております。

この建物は、別紙「見解」に記しますとおり、1960年代の千里ニュータウンの開発に際して、20世紀日本を代表する建築家・村野藤吾（1891～1984）の設計により建設されたものです。戦後日本の住宅地建設の画期をなす千里ニュータウンの設計理念を反映し、また日本の戦後復興と高度経済成長を象徴する、しかも優れたデザインを持つ歴史的な建造物であります。

千里ニュータウンの建設を記念する数少ない歴史的な建物でありますので、保存しながら活用することで、街が歴史的な厚みのある豊かなものになると言えます。近年では、建築資源の有効活用の視点からも、こうした鉄筋コンクリート造建築は、構造体の補強および機能に応じた整備によって長寿命化を図り、新たに活用してゆくことが求められております。

貴財団におかれましては、このたびの計画に際し、その価値を十分に認識され、かけがえない文化遺産を後世に継承していただけるよう深甚なるご配慮をたまわりたく存じます。

なお、本会はこの建築の保存に関して、技術的支援などできます範囲でお手伝いさせていただきますと考えておりますことを申し添えます。

今後とも、この優れた由緒ある建造物と環境の保全に、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

平成 20 年 7 月 1 0 日

千里ニュータウン南地区センタービル・文化センターについての見解

日本建築学会近畿支部
近代建築部会 主査 橋寺知子

・建物の概要

大阪府吹田市津雲台 1 に所在する本建物は、1964 年（昭和 39 年）に竣工し、1976 年（昭和 51 年）に東側に増築がなされたものである。1964 年竣工部分は、鉄骨鉄筋コンクリート造、地上 4 階、地下 1 階建ての建築で、延べ床面積は 6,798 平米。1976 年竣工部分は、鉄骨鉄筋コンクリート造、地上 2 階、地下 1 階建ての建築で、延べ床面積は 5,157 平米。したがって両者を合わせた現状の建物は、延べ床面積一万平米を超える規模を有している。設計は村野・森建築事務所（村野藤吾）、監理は大阪府企業局および村野・森建築事務所、施工は奥村組による。

竣工後、インテリアが部分的に改装されているが、建物の外観や北側のデッキ部分、内部の階段廊下など共有スペースは、ほぼ竣工当時のまま残されている。全体としては良好に維持活用されている。

・千里ニュータウンの建造物としての価値

当該建物が立地する千里ニュータウンは、1960 年代初頭から 70 年代初頭にかけて 15 万人が居住する住宅地として建設された、日本で最初の大規模ニュータウンである。小学校を中核とした 2000 戸から 2800 戸程度のまとまりからなる「近隣住区」が単位となり、その中に診療所や近隣センターを配し、歩車分離を徹底するなど、当時最先端の都市計画理論を実現し、人々に豊かな生活環境を提供したものとして注目された。

この「近隣住区」の 3 区分から 5 区分を集めて 1 地区を形成し、この中心に「地区センター」が配置されており、ニュータウン内には当初 3 つの地区センターが配置されていた（千里中央、北地区、南地区）。当該建物は、これらの「地区センター」のうちの一つである。つまり、千里ニュータウンの中核をなす重要な公共施設として位置付けられ機能してきたものである。

当初は当該建物の北側に広場が設けられ、歩行者通路が巡らされ、商業施設やオフィスビルなどが配置されて高密度な機能と変化のある空間を実現していた。現在も、阪急南千里駅と直結し、高い利便性を有し、また公共的な施設を収めるなど、人々の生活の拠点としての機能を果たしている。

千里ニュータウンは建設から 40 年ほどが経過し、日本の高度成長期である 1960 年代を象徴する歴史的遺産としての評価が高まっている。2003 年には、近代建築の保存に関する

国際組織 DOCOMOMO (Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of the Modern Movement) の日本支部が選んだ日本を代表する歴史的に価値ある近代建築の 100 選の一つとして、千里ニュータウンが選定されている。当該建物は、その千里ニュータウンの設計理念をよく反映し、またその建設を記念する、数少ない歴史的価値のある建物である。

・村野藤吾の作品としての価値

当該建物は、近代日本を代表する建築家村野藤吾 (1891~1984) によって設計されており、そのような観点からも大きな価値を有する。

村野藤吾は、1918 年に早稲田大学建築学科を卒業後、「綿業会館」(重要文化財・1931 年)などで知られる渡辺節が主宰する渡辺建築事務所に入所し、それ以来大阪を拠点とした。1929 年には村野建築事務所を開設し (1949 年に村野・森建築事務所に改称)、商業施設、オフィスビル、住宅、学校施設、美術館など、全国各地で数々の建築の設計を手掛けた。その作品は日本建築学会賞や日本芸術院賞を受賞している。また 1955 年には日本芸術院会員となり、1967 年には文化勲章を受章するなど、戦前戦後を通じて日本を代表する建築家として、揺るぎない評価を得ている。日本建築家協会会長、イギリス王立建築学会名誉会員、アメリカ建築家協会名誉会員としても活躍した。

2005 年には宇部市渡辺翁記念会館 (1937 年竣工)、2006 年には広島世界平和記念聖堂 (1953 年竣工) が、それぞれ国の重要文化財に指定されるなど、近年、村野藤吾作品は文化財としての価値も広く認められてきた。

当該建物は、一見箱形の近代的な建物であるが、村野藤吾らしいデザインを有している。建物の南面および東西面は、形のパターンが異なる窓が交互に配されており、建物の全体の印象を決定づけている。一方竣工当時広場に面していた北側の壁面は、ペントハウスを取り込んだ冠を載せたようなデザインの窓と、横長に連続した出窓が配され変化を与えている。内部では、敷地の段差に合わせるようにして、スキップフロアが採用され、また複雑に折れ曲がりながら階段が配置されている。こうしたデザイン手法によって、決して退屈にならない変化のある空間が生み出されている。

この一見シンプルな建物に見えながら、細部を見ると様々なところで変化が生み出されているというデザインは、村野藤吾特有のものである。そしてそれは、戦前のおお阪を代表する建築家渡辺節の設計方法を引き継ぐものだと言える。つまり当該建物は、村野藤吾作品として、また大阪の地域的特色をも反映した、優れた歴史的建物だと言える。

村野藤吾の作品は、近年高い評価を受ける一方で、解体の危機にある建物も複数ある。現在残されている建物は、数少ない貴重なものであり、是非とも保存が望まれる。



現状（南面）



現状（東南方向より）



竣工時

（『千里ニュータウンの建設』大阪府、1970より）



(北面)



(内部)